



2005年2月27日

日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2
43-0468(福田)
42-2462(鈴木)

週1回発行
お問合せは上記へ

不要不急の事業を見直して

くらし優先の予算を

福田明市議
が反対討論

2月23日、第一回定例市議会が閉会しました。日本共産党は平成17年度北茨城市一般会計予算に反対し、福田明議員が討論をおこないました。大要は次のとおりです。

新年度の一般会計予算は139億円で、前年比16億円の減となっている。

これは「三位一体」改革による国からの補助金削減の影響と、約200億円にもふくらんだ借金をこれ以上は増やせないという事情も重なった



大門みきし参議院議員も迎えて日本共産党市政報告会
福田明、鈴木やす子両市議が力強く訴え(2/19)

と考えられる。

そもそも借金急増の原因は、火発を当てにしている開発優先の政治にある。とくに火発受入れを決めて以降に借金が急増している。

この10数年の主な大型事業をあげれば下表のようになる。多くが市の財政能力も採算性も無視してすすめられた結果、たいへんな負担になっている。

こうした経過から教訓は2つ。まず、従来の「身のたけ知らず」の財政運営はおこなわないこと。そして、税金の使い方を、必要性や採算性を無視したハコモノ優先ではなく、

これまでの主な大型事業と予算額

- 小山ダムの市の関連負担金(30数億円)
- 市営墓地(約11億円)
- 磯原橋上駅(約14億円)
- マウント茜(約10億円)
- オートキャンプ場(9億2000万円)
- ガラス工房、童謡の森(4億8287万円)
- 雨情の里スポーツ広場(約15億円)
- 港湾負担金(10年間で13億円)
- 広域農道(市の負担分12億8000万円、17年度予算でも6418万円支出予定)
- 南中郷工業団地の造成(側溝など市の負担分2億円)

くらし・福祉・教育中心に切り替えることである。

ところが17年度予算案では、そうした反省はなく、新たに約5億円をかけ、大津港に漁業歴史資料館の建設に足を踏み出そうとしている。大きな赤字を出している。「マウントあかね」の二の舞ではと懸念される。

なお、東電からの寄付金12億円のうち3億円を同施設の建設等に使うとしているが、これは許されない。3億円を小学校入学前までの子どもたちの医療費助成に充てれば、15年間も無料にすることができる。

削っているのをはじめ、市民に冷たい内容となっている。いつぼつ、きびしい不況から市民のくらしを守る新たな施策はほとんど見当たらない。

財政が厳しければ厳しいほど、市民の声をよく聞き、必要性や緊急性のない事業は見直して、市民のくらし中心の予算にすべきである。17年度予算案は、これとは程遠い予算内容であり、市民のくらしを守る立場から反対する。

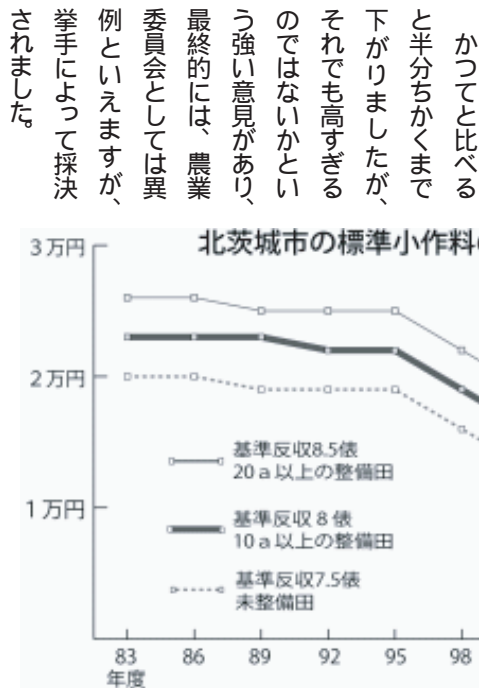
「指定管理者制度」について

公共施設の管理を、株式会社を含む民間にも広げる「指定管理者制度」にかかわって、10本の条例改正が提案された。このうち、とくに市民福祉増進の目的の高い心身障害者福祉センターなどに関しては、安易にすすめるべきではないとして鈴木やす子議員が反対討論に立ちました。

新年度からの標準小作料

異例の
挙手採決

2月21日に開かれた農業委員会、新しい標準小作料が決まりました。かつてと比べると半分かかかまで下がりましたが、それでも高すぎるのではないかと、強い意見があり、最終的には、農業委員会としては異例といえますが、挙手によって採決されました。



市議報酬の削減で生じた 予算は市民の暮らしに

市会議員の期末手当を市長・助役・収入役・教育長の四役と同様、1・2カ月分削減することが全会一致で決まりました。削減額は1人当たり約54万円で、総額は約1300万円になります。これで生じた予算の使い道について一部の議員からは「0・4カ月分の期末手当が削減される市職員に何らかの形で還元を」との要望がありました。が、日本共産党市議団は「議員の削減したお金は、何よりも市民のためにこそ使わなければならない」と発言しました。